

【熊本公徳会賞】

みんなのどうぶつえん

上天草市立中北小学校 1年 宮崎 彩未

くまもとにあるどうしょくぶつえんは、わたしもいったことのある大すきなばしょです。

くまもとじしんがあったとき、どうぶつえんでは、水がでなくなつたそうです。しいくいんさんたちは、まい日、水をくみにいきました。わたしは、しいくいんさんがどうぶつたちをもっと大きくしてやりたい、子どもたちがどうぶつえんをもっとすきになつてほしいとおもつて、いっぱいがんばつたんだなとおもいました。

そして、しいくいんさんたちは、『ふれあいどうぶつえん』をはじめました。しいくいんさんたちは、大へんなのに、子どもたちみんなのためにやつていてから、やさしくていいなとおもいました。子どもたちが、どうぶつをさわつたり、だいたりして、えがおになりました。子どもたちからの手がみをよんで、しいくいんさんはとてもうれしくなつたのをしつて、わたしもうれしくなりました。しいくいんさんが、みんなのためにはたらくことで、みんなもえがおになるし、しいくいんさんも、えがおになるんだなとおもいました。

ことしのなつやすみに、かみあまくさでは大雨がふりました。わたしのいえは、だいじょうぶだつたけれど、お父さんから、

「アロマがたいへんことになつていてる。」

とききました。しゃしんを見ると、よくあそびにいっていた『そうごうセンターアロマ』がプールのように水びたしになつていて、むねがいたくなりました。そして、お父さんが、

「なにかできることはないかな。」

とはなしていませんでした。わたしも、まわりの人のためにうごくことができるような人になりたいとおもいました。大せつなばしょである『アロマ』が早くもともどれるようにねがつてます。